

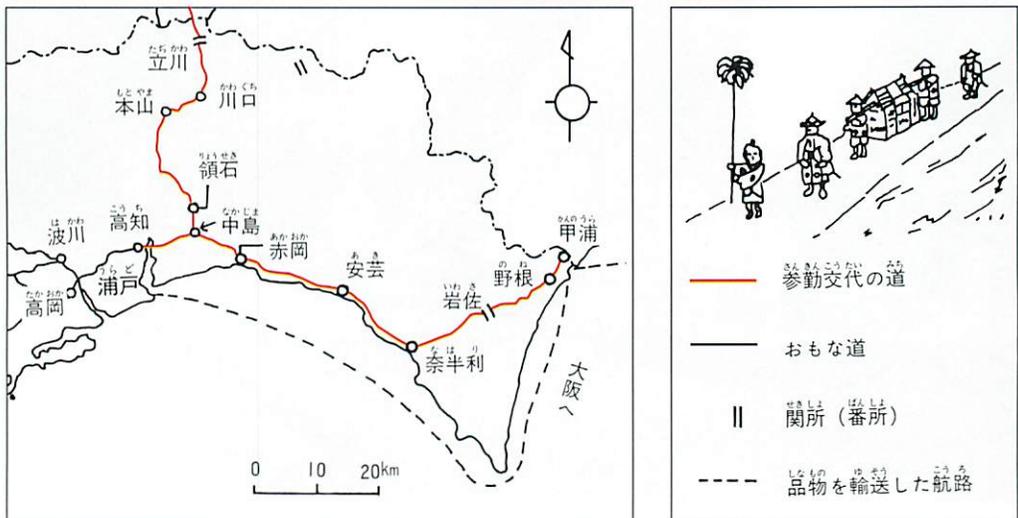
## (2) 参勤交代

**参勤の道** 土佐藩主の参勤の方法は、いくつかあったようです。

はじめは、高知城を出て浦戸に向かい、ここから船で大阪に行き、東海道を進みました。海があれたときは、浦戸で日和まちし、天気をみて出発しました。大阪までは、3、4日で着いたようです。東海道は、16日以上かかりましたので、江戸までの所要日数は、およそ22日だったようです。

しかし、この方法は、海上距離が長く、また室戸岬という難所があるため危険であることから、海岸ぞいに甲浦に行き、ここから大阪にわたることもありました。この所要日数は、およそ30日だったようです。

参勤交代のとき山内氏がおった道



ところが、この方法も海上利用であり、<sup>きけん</sup>危険が多く、また出費もかさむこともあり、しだいに陸上利用へと変えられていったようです。<sup>(1)</sup>立川を通る北山ごえは、1718年、6代藩主山内豊隆が最初と伝えられています。<sup>しやう</sup>所要日数は30日をこえたようです。

北山ごえの道を利用するために、<sup>たかおか</sup>高岡をはじめ<sup>とさ</sup>土佐、<sup>ながおか</sup>長岡、<sup>かみ</sup>香美の四郡から、7000人もの人たちが集められ、道路の整備や荷物の運搬にあたったといわれています。



北山ごえ（想像図 立川パーキングエリア）



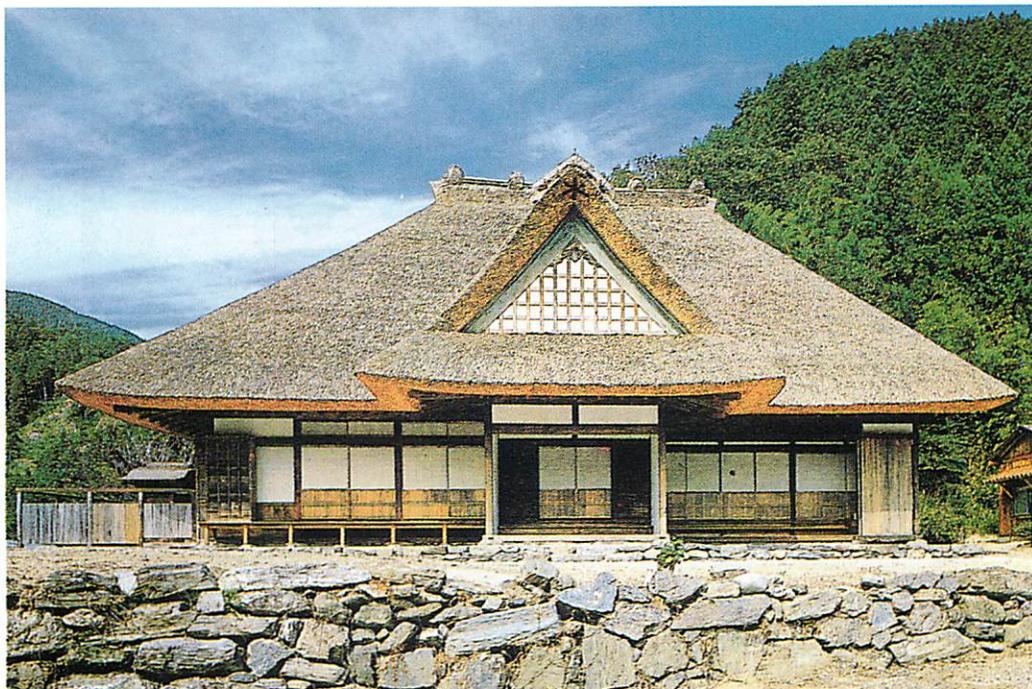
北山ごえの道の碑（南国市亀岩）

これ以来、城下より布師田、穴内、本山、川口、立川街道を経て、  
 笹ヶ峰から伊予（愛媛県）への道は、参勤道としてにぎわうことと  
 なったのです。

注(1) 立川 江戸時代に関所（道番所）がおかれ、岩佐（北川村）・名野川（仁淀川町）の関所と  
 ともに三関の一つに数えられた。

また、参勤交代路として北山ごえがえらばれてからは、本陣がおかれた。

立川番所書院（大豊町立川）



笠ノ川地藏堂（岡豊町笠ノ川）



岡豊町笠ノ川に地藏堂が  
 あります。  
 山内の殿様は、参勤交代  
 のおり、ここに立ちより、  
 のどのかわきをここの水  
 でうるおしたそうです。